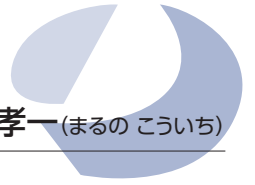


人生100年時代をお客さま目線で考える

第一生命経済研究所 代表取締役社長 丸野 孝一(まるの こういち)



将棋界では、「人生100年時代」を象徴するような3人の天才が活躍している。加藤九段は1940年生まれ、羽生二冠は1970年生まれ、藤井六段は2002年生まれで、ほぼ30歳ずつ違う。「人生100年時代」が近づきつつあるが、現役棋士を引退した加藤九段のように70代半ばまで現役の棋士を続けたうえ、新たにタレント「ひふみん」として活躍している。将棋界での実績だけでなく、70歳過ぎにタレントとしての新たなキャリアを積み始めるといふ、高齢化社会の「リキャリア」を実践している好事例だ。

また、藤井六段のプロデビュー戦は加藤九段との対局であり、朝日杯では羽生二冠と準決勝で戦った。これだけ年齢が離れてもハンディなく勝負ができる世界は、生涯現役社会を目指す「人生100年時代」に呼応する。中学生の藤井六段はこの4月から高校に進学し、若くして棋士と高校生の二足のわらじを履くこととなる。今の言葉で言い換えれば、「パラレルキャリア」の人生を15歳から選択したということだろう。

弊社のグループ企業である第一生命が30年にわたって行っている「サラリーマン川柳コンクール」の入選作に、次のような句がある。

王将を 歌い続けて 歩のまんま

車屋さん

単線キャリアで真っ直ぐ頑張ってきたけれど、気がついたら「金」にもなれず「歩」のままだった、多くの方がこの切ない句に共感されている。「人生100年時代」に向けて、複数のキャリアを歩んだり、キャリアの見直しができる社会が検討されているが、皆が棋士のようにプロとして一生打ち込む仕事をもつ人生が過ごせるわけでもない。弊社は、AIに仕事が取られるのではないかという不安を持ち、「人生100年時代」到来と言われどうしたらいいか悩む普通の人たちをサポートしたいと思っている。

弊社の前身である第一生命初のシンクタンク、ライフデザイン研究所は第一生命の85周年記念事業として、い

まから30年前の1988年9月に設立された。所長であった故加藤寛慶応義塾大学教授は「[経済優先から生活重視へ]時代が変わり、これからは「生活の質」を向上させるライフデザイン(生涯設計)が重要になる」とずばり見通していた。人それぞれのライフステージにおける「生活の質」を高めるには、経済(Keizai)・健康(Kenko)・家庭(Katei)・教育(Kyoiku)・心(Kokoro)の5つの領域(頭文字をとって、5K)について、一人ひとりが事前に計画しておく(プロアクティブな)ライフデザイン(生涯設計)が重要で、それを支援するためにライフデザイン研究所を設立したと述べている。

その後、ライフデザイン研究所は、2002年10月に経済・金融・保険の調査を担う第一生命経済研究所と合併、2009年には第一生命ウェルライフサポートから健康・医療・介護の情報発信機能を受管することで、いまや経済・生活分野を統合して調査・研究する総合シンクタンクとなっている。

最近まで、ライフサイクルは教育20年・就労40年・退職20年と単線で考えられることが多かった。しかし、長寿化が進むこれからは、100年という長い生涯を自ら个性的に切り拓いていくという視点が重要となる。働きながら学び続ける、複数の仕事をもつパラレルキャリアを選ぶ、親の介護と仕事を両立させる等、自ら主体的にマルチラインの人生を選択していく時代へと変化していくだろう。

そのようなライフデザインを5Kの基軸で考え、情報発信やセミナーの提供を通じて個人の幸福を最大化できないか?弊社のビジョンを「人生100年時代をお客さま目線で考える」と新たに定めた最大の理由はそこにある。

単線ではないマルチラインを進む「歩」は、様々なライフステージで「金」にも「王将」にもなりうる。弊社はそんな多種多様な複線の「人生100年時代」の可能性についてお客さま目線で提言していきたい。